

# 百草

ひやく にち そう

## No.29

特定非営利活動法人たすけあい大田はせさんず  
〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3  
TEL03-5747-2610 FAX03-5747-2620  
e-mail・info@hasanz.com  
URL・http://hasanz.com/

はせさんずは会員制のたすけあいの会です。入会随時受付！  
NPOの非営利活動にご寄付ご支援をお願いします



## 「With コロナ」の日々に

NPO法人たすけあい大田はせさんず  
理事長 榎敷洋子

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言のなか、最大限の対策をしながら事業を継続してきました。東京都や大田区からは、密閉、密集、密接の3密を避けつつ、サービスを続けるようにとの依頼が出されていますが、そもそも密接ではない介護サービスはありません。

マスク、消毒液、防護のエプロンや手袋の購入にも一苦労。職員は毎朝検温し、事業所や利用者宅への出入りには必ず手指消毒をする、室内を定期的に消毒液で拭き掃除する、外部の人との対応は玄関外で行うなどなど、考えられる限りの感染予防をしながら、利用者やヘルパー・介護職員が感染しないように、祈るような毎日を過ごしています。

デイホームでは、3密を防ぐために利用自粛を呼びかけたり、サービス時間を短縮したりしました。ヘルパーステーションでは、サービスを減らしたり中止したりしましたが、どちらも事業実績（収入）は激減。

もはや感染予防対策にしろ、経営上の問題にしろ、各事業所に任せてすむ問題ではありません。「With コロナ（コロナとともに）」といわれる時代、今後も予防対策が必要であるなら、デイサービスにおける利用者1人あたりの基準面積を広くすると同時に単位数を上げる、一定期間コロナ加算をつけるなど、利用者が少なくとも従来の介護報酬が補償されるような対策がないと、介護事業所の継続は困難です。

また、サービスを利用する高齢者や障害者、また、介護職やその家族が発熱した場合は、すぐにPCR検査を受けられる体制を望みます。発熱した利用者宅への訪問もヘルパーは避けることができません。家族に発熱があることで感染しているかどうか不明なまま介護職が自宅待機を余儀なくされると、事業所が人手不足で運営ができません。介護職が不安なくサービス提供できるようにならないと、介護業界全体が安定しないでしょう。

昨年『百草』No.28で、「認定NPO法人6年目を迎えて」と題し認定更新前の所感を掲載しましたが、その後、更新を見送りました（『はせさんずニュース』No.87でも報告）。法人運営や経理・財務などには問題なく、賛助会員の人数や寄付などの要件もクリアしていましたが、この5年間に手続き上の不備があったためです。多くのご支援ご協力をいただきながら、認定更新ができなかったことは大変残念ですが、はせさんずの理念や活動は以後もまったく変わることはありません。特定非営利活動法人として「公益に資する」とは何かを常に考えながら、これからも皆様とともに歩む覚悟を新たにしています。

# 第22回通常総会開催

## 議案のすべてを承認

第22回通常総会を5月24日(日)10時から、はせさんず事務所1階(デイホーム)で開催しました。本年は、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、例年とは開催形式を変更しての開催となっています。

次の方針で開催しました。

- ①理事長、議案提案者、議事録作成者、議事録署名人のみの、最少人数の出席とする。
- ②上記以外の社員は、事前に郵送した総会資料により、原則として議決権行使書(郵送)での賛否表明を行う。
- ③特別に発言の機会を希望する場合は、事前に連絡して出席することは可能。

その結果、社員総数24名のうち、出席者4名、委任状表決者(議決権行使含む)19名により総会は成立し、下記4議案が異議なく承認されました。

- 第1号議案 2019年度事業報告
- 第2号議案 2019年度決算報告
- 第3号議案 2020年度事業計画(案)
- 第4号議案 2020年度予算(案)

### ●2020(令和2)年度事業計画

新型コロナウイルス感染の収束状況や対応が予測できないため、本年度は事業が計画通り執行できない場合があります。

#### [会員制活動事業]

年間6,400時間を目標とし、たすけあいの活動者を増やすためボランティア講座を開催します。移送活動会員の研修会も引き続き行い、安全対策などを徹底します。

NPO運営の危機を乗り越えるため寄付キ

ャンペーンを実施し、寄付活動の強化を図ります。

連携外部団体には継続参加し情報交換するとともに、地域の団体とも交流を図ります。

#### [元氣かい]

元氣な高齢者の介護予防活動を地域ごとに広めるため、参加する人が集まりやすい会場探しに努めます。「テラッコ池上」の使用も検討します。

#### [市民後見事業]

任意後見活動を中心に、養成研修修了者による見守り活動を促進していきます。法人内部の職員に対する研修も実施します。

#### [居場所事業]

寄り道カフェは、池上駅前商店街の貸しスペース「テラッコ池上」で運営します。相談事業や介護予防体操、各種講座を組み合わせ毎週開催します。

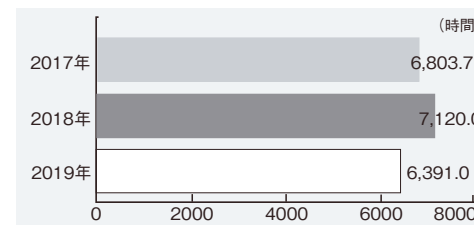
#### [介護保険事業]

大田区総合事業や自費サービスも合わせた活動目標は、訪問介護が年間9,960時間、居宅介護支援は年1,452件のケアプラン作成と月4人程度の認定調査、通所介護は年間利用者4,320人です。

今年も職員の介護キャリア段位取得や、ヘルパーのレベルアップ研修に取り組みます。通所介護は利用者の満足度を高めるために、変化に富む食事の提供や体力維持を

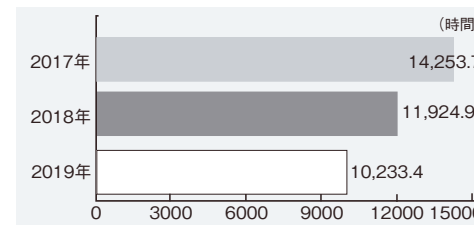
### ●2019(平成31・令和元)年度事業報告資料(3年間の部門別活動状況)

#### [会員制活動事業]



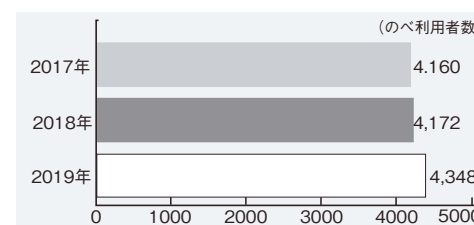
目標の7,800時間に対し81.9%の実績で前年度比も89.8%と減少。移送サービスのニーズ調査や、公的サービスとボランティアによる支援を併用する柔軟な対応を検討している。

#### [介護保険訪問介護事業]



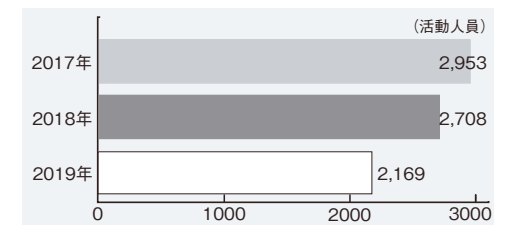
目標の10,860時間に対して94.2%の実績で、前年度比も85.8%。前年度退職した介護職員の補充が十分できず、本年度も管理者の退職があり、活動件数、利用者数とも減少した。

#### [介護保険通所介護事業]



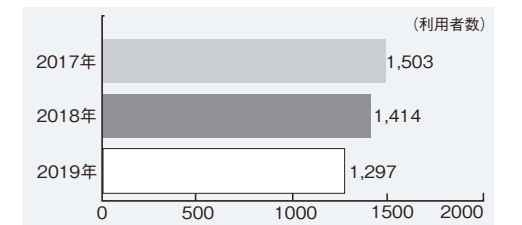
目標の利用者数4,140人に対し105.0%の実績で前年度比も104.2%と利用者数が増加。昼食メニューやレクリエーションを工夫してサービスの質の向上に取り組み成果を上げた。

#### [元氣かい]



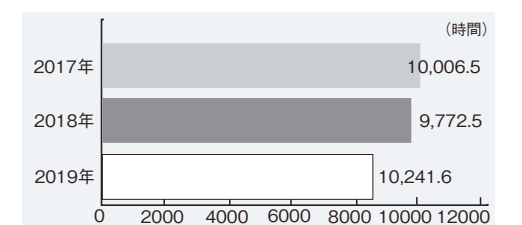
健康体操、健康麻雀、絵手紙、俳句、英会話、季節のイベントなど期前までは順調に活動したが、会場利用料が増額され、感染症対策も含め活動のあり方の検討が必要となった。

#### [介護保険居宅介護支援事業]



要支援者を含む利用者数の目標1,440人に対して90.1%の実績、前年度比も91.7%と減少。前年度に退職した非常勤ケアマネジャーの補充を1名採用したが、回復に至らなかった。

#### [障害福祉サービス事業]



目標の9,600時間に対して88.6%、前年度比は87.0%の実績。対応できるヘルパーが不足しているうえ、訪問介護事業の管理者を兼務したため、サービス範囲が広がらなかった。

図る体操プログラムなどを実施します。

#### [障害福祉サービス事業]

年間7,800時間を活動目標とします。相談支援従事者研修を受講して、障害者の理解を深めます。外部会議にも継続して参加し、サービスや研修などで事業者間の連携を図ります。

#### [保育事業(大田区委託事業)]

調布、蒲田、大森、糀谷・羽田の各地域庁舎

で実施される母親教室の中での保育を年間700時間ほど担当します。

#### [その他の事業]

外部への講師派遣、学校・団体の職場体験、現場研修などを引き受け、地域貢献と同時にNPOの活動の実際を知ってもらいます。

### ●決算・予算について

2019(平成31・令和元)年度の会員制

### はせさんずに、ご寄付をありがとうございました

2019(平成31・令和元)年度寄付者

赤羽敬子	植田興一郎	上田隆正	漆原富紀子	扇田みゆき	乙部道子	金子文一
川村 明	木内 綾	北原美佐子	小林恵子	坂口郁子	栈敷洋子	篠田明夫
清水はりえ	鈴木悦朗	田中美枝子	田村政子	直井房子	野崎節子	野田壽子
橋芝一江	原田一恵	原田光明	平林祥子	深沢孝子	星 幸子	堀井聡美
増渕友美	宮 輝彦	山崎マスイ	山田麻澄	渡辺登志子		

以上 33 名 (敬称略五十音順) 総額 5,330,840 円でした。皆様からのご芳志は、はせさんず運営費として有効に使わせていただきました。なお、大田区より福祉有償運送補助金として 419,500 円の交付を受けています。フリーマーケット売上高は 316,747 円でした。

活動、介護保険、障害福祉サービス等を合わせた法人全体の総収入額は 1 億 3,873 万円 (前年度比 96.1%)、総支出額は 1 億 3,835 万円 (前年度比 94.6%)。当期収支差額は 38 万円。

会員制活動では予定していた車両リースを翌年度に延期したため、経費が少なかったこと、寄付があったことなどで黒字となりました。介護保険訪問介護および障害福祉サービス事業では、年間活動時間は目標を

下回りましたが、相対的に人件費も少なくなり、補助金なども加えて、収支は黒字でした。しかし、居宅介護支援事業では利用者数の減少で収支がマイナスとなり、法人全体で若干の黒字にとどまりました。

2020 (令和 2) 年度の予算は法人全体で 1 億 3,706 万円 (前年度比 96.6%) としました。事業計画と同様に合理的な予算が組みにくくなっているため、各事業の前年度実績をもとに作成した予算です。

### 2020(令和2)年度月別活動予定

- 4月 ー
- 5月 第22回通常総会
- 6月 第1回寄付キャンペーン、『百日草』No.29 発行、『はせさんずニュース』No.90(臨時号)発行、寄り道カフェ
- 7月 移送活動者安全研修会、暑気払い懇親会(事業説明会)、元気かい、寄り道カフェ
- 8月 成年後見制度内部職員研修、元気かい、池上まつり寄り道カフェ
- 9月 介護職員検診(検便)、『はせさんずニュース』No.91(夏号)発行、ボランティア講座、元気かい、寄り道カフェ
- 10月 職員防災避難訓練、保育者研修会・懇親会、ヘルパー研修会、元気かい、寄り道カフェ

- 11月 第2回寄付キャンペーン、『はせさんずニュース』No.92(冬号)発行、職員健康診断、元気かい、寄り道カフェ
- 12月 ボランティア講座、年末懇親会、元気かい、寄り道カフェ
- 1月 『はせさんずニュース』No.93(新春号)発行、障害者支援研修会、元気かい、寄り道カフェ
- 2月 講演会、ヘルパー研修会、元気かい、寄り道カフェ
- 3月 移送活動者情報交換会、元気かい、寄り道カフェ

新型コロナウイルスの収束・感染拡大状況によっては、予定の変更があり得ます。



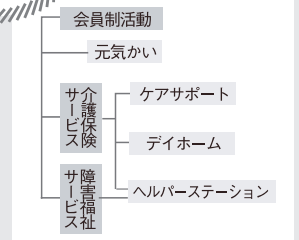
## mini News

各部門  
今年度は  
ここが重点!

### 会員制活動

さらなる安心と慶びの実践

助けを求められても馳せ参じることが難しい時代。だが、新しい生活様式になっても家事援助や移送サービス(移動の自由)の実現は、必須。顔が見える関係は継続していきたい。利用者も活動者も安心して慶びあえる地域をめざして!(大澤恵美子)



### ヘルパーステーション

細心の感染症対策をしつつ

新型コロナウイルス感染拡大のなか、細心の注意を払い、持ち込まない、持ち出さない、ひろげない環境づくりをしています。今年は特に感染症対策に重点をおきます。十分な研修を実施し、必要な場合にはフェイスシールド、手袋、カッパなど安全対策をしながらケアを提供できたらと考えています。(榎拓巳)



### デイホーム

創意・工夫と対応力のある現場に

利用者のマスク着用や手指消毒、座席の間隔空け、食事の際の亚克力板設置等の対策。これまでのデイのよさを否定するような状況ですが、感染防止と利用者の安全第一で運営するには、従来とは違う創意・工夫が求められます。その変化に対応できる「自ら考え行動する力」をもった人材を育成していきます。(岡田香)



### ケアサポート

不測事態に備え、柔軟かつ迅速に

未曾有の事態となった年度始まり。大切な利用者を守るため、今、何をすべきか、いつもそれを考えていた4人です。今後も感染症や自然災害など不測の事態に常に備え、柔軟かつ迅速にケアプランの見直しを行い、自分たちの身も守りながら、日常生活機能低下や重症化の防止に尽力していきたいと思えます。(平山明美)



### 元気かい

生活環境の変化に応じた介護予防を

感染症との共存・戦いは、今に始まったことではありません。これからも生活環境は変化。それでも介護予防は必須。どんな介護予防がよいのか「知恵出し」のとき、改めて介護予防とは何かを考えて、みんなで実践していきたい。笑いの絶えないふれあいの“場”を求めて!(佐藤悟)



# 私たちのあゆみ

2019(平成31)年4月～2020(令和2)年3月

- 2019. 4. 4(水) 大田 NPO 活動団体交流会（役員会、議員懇談会、学習会） 以後全 18 回 矢嶋
- 16(火) 東京都介護保険居宅事業者連絡会 以後全5回 棧敷
- 17(水) 『はせさんずニュース』No.86 発行  
以後9.30No.87、12.6No.88、1.31No.89発行
- 24(水) 大田区居宅事業者ネットワーク 以後全12回 棧敷・榎
- 26(金) 地域ネットワーク「ふれあい茶話会」参画  
以後全10回 平山・清水・鈴木
- 5.12(日) 池上まちおこしの会環境部会（トマト苗配布、呑川の会座談会等） 以後全 6 回 佐藤
- 13(月) 東京都社会福祉協議会たすけあい部会 以後全 5 回 矢嶋
- 21(火) 大田区介護支援専門員連絡会（総会、研修会）  
以後全12回 平山・清水・鈴木・小室
- 26(日) 第 21 回通常総会 はせさんず事務所デイホームにて
- 28(火) 大田区訪問介護事業者連絡会・研修会 以後全 10 回 棧敷
- 6. 4(火) はせさんず寄り道カフェ テラッコ池上にて 以後全 35 回
- 12(水) 安全運転管理者講習受講 大澤
- 20(木) ヘルパー研修会「生活援助」池上会館にて 参加者 27 名  
大田区医師会主催「地域包括ケアの会」参加  
以後全3回 清水・鈴木
- 24(月) 大田区自立支援協議会 以後全 9 回 棧敷・榎
- 28(金) 『百日草』No.28 発行
- 29(土) 市民福祉団体全国協議会居住支援研修&学習会  
以後全4回 棧敷・佐藤
- 7. 2(火) 大田区福祉有償運送運営協議会 棧敷・高木・金子・佐藤
- 6(土) 東京のくらしの足を考える会（福祉有償運送を行う団体有志の会）参加 佐藤
- 7. 6(土) 移送活動者安全運転研修会 参加者13名 以後全2回
- 22(月) デイホーム運営推進会議 以後全2回 岡田・風間・蔵野・矢嶋

No.86 春号では「2019 年度はせさんずスタッフ」、No.87 夏号では「大田区居宅事業者ネットワーク」、No.88 冬号では「駅前商店街に移動した寄り道カフェ」、No.89 新春号では、「会員制たすけあい活動事務局」「介護保険訪問介護・障害福祉事業部」「居宅介護支援事業部」「地域密着型通所介護事業部」各部門よりのメッセージを特集しました。



デイホームのお花見



元気かいのお花見



『はせさんずニュース』No.88で寄り道カフェの移動を紹介



デイホーム運営推進会議

## ■ご冥福をお祈り申し上げます

白田 豊子さん 酒井 朝子さん 須恵 小百合さん  
辻 誠一郎さん 門間 ミヤ子さん

(会員のみ)

- 7.30(火) 大田区在宅医療連携推進協議会 以後全2回 棧敷
- 8.25(日) 第 17 回池上まつり（寄り道カフェ&デイホームの模擬店出店）参加者 39 名
- 28(水) 大田区障害者サポートセンター主催勉強会 以後全2回 清水
- 9.9(月)・10(火) さわやか福祉財団いきがい助け合いサミット大阪 佐藤
- 25(水)～10.1(火) 大田区職員研修講師 矢嶋
- 10.1(火)～3(木) 大田区立大森第 4 中学校職場体験受け入れ 2 名
- 10(木) 大田区高次脳機能障がい家族会主催勉強会  
以後全4回 平山・清水・鈴木
- 17(木) ヘルパーステーション&デイホーム&ケアサポート  
合同研修「事故防止と安全対策」デイホームにて 参加者14名  
世田谷区高齢者福祉部（認定調査現任研修）平山
- 24(木)～12.5(木) 大田区職員現場体験研修訓練受け入れ  
全 8 日間 全 15 名
- 10.30(水) 元気かいピアノデュオコンサート  
大田区民プラザにて 参加者 72 名
- 11. 2(土) OTA ふれあいフェスタ、フリーマーケットに出店  
大田区平和の森公園にて 参加者のべ 33 名
- 14(木) ヘルパー研修会「認知症ケア—コミュニケーション」  
池上会館にて 参加者 18 名
- 15(金) はせさんず防災・避難訓練 参加者（デイホーム利用者&職員）30 名
- 12. 2(月) 2020 年版パラアートカレンダー制作・販売 129 部
- 3(火) ヘルパーステーション茶話会 テラッコ池上にて 参加者 8 名
- 15(日) 大田区社会福祉協議会介護職員初任者研修講師  
以後全 3 回 矢嶋・岡田
- 2020. 1.22(水) 東京都キャリアパス導入促進事業リーダー向け研修 榎
- 29(水) 介護職員スキルアップ研修 全 3 日間 明石
- 2.14(金) 大田区福祉有償運送更新申請 棧敷・高木・金子・佐藤
- 27(木) 大田区移動支援事業所ネットワーク会議 棧敷・榎  
『はせさんず通信』発行  
コロナウイルス対策で活動会員へ消毒薬&マスク配付連絡
- 3. 7(土) 予定していた第 23 回はせさんず講演会を中止

本年度も 1 日出店。献品と出店支援により、31.6 万円の売り上げを達成しました。



防災・避難訓練で消防署員の講評を聞く



OTA ふれあいフェスタのフリマ



ヘルパー研修会（認知症ケア）



2020 年版パラアートカレンダー



活動会員へ手指消毒薬とマスクの配付開始

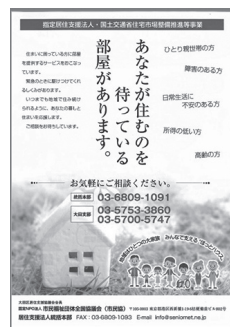
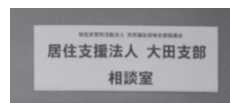
## 「居住支援」を地域に根づいた活動に

### ■住宅確保に配慮が必要な人への支援に取り組む

昨年度から、住宅確保要配慮者（低所得者、被災者、高齢者、障害者、ひとり親世帯など住宅の確保に特に配慮が必要な人）の居住支援に取り組んでいます。市民福祉団体全国協議会（市民協）の依頼によるもので、大田区支部として住宅確保の相談にのります。不動産屋さんと協力しながら相談者のニーズに合う物件を探し、契約に立ち合い、入居後の見守りを行うなど、地域で生活が続けられるように支援します。

### ■はせさんずの「たすけあい」へもつなげていきたい

希望にそう契約ができたときにはホッとしますが、相談者の状況によってはどこでも断られてしまうことがあります。問題を抱えた人は家主が避けたがるからです。行政が公営住宅を提供する、事故物件になった場合の補償をするなどの施策が望まれます。福祉は住宅に始まり、住宅に終わるといわれます。はせさんずでは、必要に応じて従来のたすけあい活動へもつなげ、地域に根づいた活動として広げたいと思います。（棧敷洋子）



## 真に必要なたすけあいサービスへ

### ■利用者の求めるサービスを模索中

現在、はせさんずでは市民後見事業として、判断力のあるうちから契約しておく任意後見に力を入れています。活動の中で定期的な見守り訪問、役所等の申請手続き、介護保険の説明、病院の入退院の手続き・支払い代行などをお手伝いしています。

後見契約までしなくても、日常生活の中でももう少し気軽に頼めるサービス、たとえば税金の納付、金融機関での振り込み、役所の申請手続きなど、本人の代行で行ってくれるサービス内容を求めている人もあり、今後の対応を考える必要があります。

### ■活動者は慢性的に不足、ボランティア講座を開講

慢性的に支え手である活動者が足りません。現状では移送の運転活動者を確保するのが精いっぱい、家事援助を担ってくれる人はほとんど確保できません。

今年度は今必要なたすけあいをもう一度考え、それを担おうとする人を増やすためにも、ボランティア講座の開講を考えています。みなさんご参加ください。（矢嶋早苗）

## 編集後記

コロナ後の介護の現場はどうなるのだろう、と案じられますが、人手不足といっても介護はロボットだけに頼るわけにもいきません。元気な高齢者はすでに多くの現場を担っています。助け合いは同世代の会員が支えています。はせさんず事務局のかくいう私も、口だけは達者な 70 代後半職員です。（矢嶋早苗）